



生活経済ジャーナリスト  
和泉昭子

日本FP協会CFP認定者。OLからアナウンサーを経て、現職へ。各種メディアで、お金とキャリアに関する情報を発信中。ブログ「Authentic Style」(<http://authentic-style.bonton-international.com/>)もあり

## OL economic terms 経済用語事典

### 景気回復？ 2007年の経済動向は…

イタリアへ行ってきた。久々のヨーロッパでバッグとコート調達するつもりだったが、ユーロ高のおかげで、買い物プランは崩壊。何もかもが高いのだ。グッチ本店は入場制限で行列ができていたが、日本人の姿は少なかった。ヨーロッパブランドは国内でも、じわじわと値上がりしている。

ユーロ高の主因はEUと日本との金利差だといわれているが、日銀の追加利上げの時期は、マーケット関係者も注目している。利上げは、ドルやユーロに対して円上昇のきっかけになるし、株価にも大きく影響するからだ。

ところで、今年の景気の見通しはどうか。専門家の予測では、「企

業業績は引き続き好調。雇用の改善や賃金アップが中小企業まで広がれば、個人消費が持ち直し、好景気が続く」との見方が大勢を占めている。

昨年、景気は「いざなぎ超え」して戦後最長の回復局面にあるといわれているが、セミナーで来場者に尋ねると、「全然ピンとこない」という声が圧倒的。景気の先行きできるかどうかにかかっている。

たとえばボーナスがアップするとか、派遣の求人が増えるとか。高価な買い物をしてる友人が目立つというのでもいい。自分なりの株価上昇も期待できるだろう。

気になるのは、定率減税全廃の影響だ。年収350万円のシングルの場合、昨年に比べ約2万2000円、一昨年に比べると5万円近くの増税となる。これを上回る賃金アップがなければ、事実上手取りは減るわけだ。

もうひとつの懸念材料は、アメリカ経済。景気減速が軟着陸できるかどうか、金利や株価の方向性くらいはウオッチしておこう。

シティ読者世代にとっては、社会人になって初めての景気回復。その恩恵にあずかるためにも、暮らしのちょっとした変化や経済ニュースをしっかりチェック。賢い女になることで、リッチで楽しい毎日を手に入れよう。

▶この記事に関する意見・問い合わせ シティ編集部 ☎03(5208)4520